

宮私幼だより

No. 132
 社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
 〒980-0803
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12
 佐正第二ビル 6F
 TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
 編集・発行人
 理事長 村山 十五



専務局だより

○関係機関団体

- 5月7日 幼稚園等新規採用教員研修会(県と共催・県庁講堂)
- 5月11日 平成22年度仙私幼総会(市民会館)
- 5月28日 私立幼稚園振興対策協議会総会(東京エレクトロンホール宮城)
- 6月8日 宮私幼PTA連合会総会(市民会館)
- 6月19日 民主党地元国会議員との懇談会(エクセルホテル東急)
- 7月13日 宮城県私立幼稚園教育振興大会・第39回宮私幼PTA研修大会(東京エレクトロンホール宮城)
- 7月26日 幼稚園等新規採用教員研修会・幼稚園10年経験者研修会(県と共催・県庁講堂)
- 7月27日 幼稚園等新規採用教員研修会(県と共催・県庁講堂)
- 7月30日 免許状更新講習Ⅰ第1回・選択Ⅴ(戦災復興記念館)
- 8月3日～4日 免許状更新講習Ⅰ第2回・必修Ⅴ(戦災復興記念館)
- 8月6日 幼稚園教育課程研究協議会(県と共催・県庁講堂)
- 8月21日 免許状更新講習Ⅰ第3回・選択Ⅴ

○全日私幼連

- 5月6日 全日私幼連理事会(東京・私学会館)
 - 5月26日 全日私幼連平成22年度定時総会・全日私幼連臨時理事会(東京・私学会館)
 - 6月14日 民主党私学振興推進議員連盟との意見交換会(東京・憲政記念館)
 - 6月15日 全日私幼連緊急団体長会・理事会合同会議(東京・九段会館)
 - 6月25日 第18回全日私幼連東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(秋田大会)
 - 6月26日 第1回全日私幼連東北地区会(秋田市)
 - 7月15日 全日私幼連団体長会・理事会合同会議(東京・私学会館)
- 宮私幼のあゆみ
- 4月13日 研究委員会
 - 4月21日 総務給付委員会
 - 4月27日 第25回東北地区私幼教研大会公開園打合せ
 - 5月10日 理事候補者推薦委員会
 - 5月12日 常任理事会・総務給付委員会合同会議
 - 5月13日 研究委員会・第25回東北地区私幼教研大会分科会及び発表園打合せ
 - 5月14日 決算監査会・第25回東北地区私幼教研大会総務部打合せ
 - 5月17日 理事会

(2頁に続く)

平成22年度宮私幼地区別設置者・園長会議

地区名	開催月日	開催会場
仙 台	8月6日	旭ヶ丘市民センター
名 取・岩 沼	18日	岩沼南こぼと幼稚園
大 崎	20日	レストランスギヤマ (大崎)
仙 南	23日	サンシャイン青葉 (柴田)
気仙沼・登米	24日	南三陸ホテル観洋
塩釜・多賀城	25日	キャッスルプラザ多賀城
石 巻	26日	石巻グランドホテル

8月に7地区毎に設置者園長会議を上記日程により開催しました。

今年度の全日私幼実態調査データを基に宮私幼で集計した結果の報告と平成23年度園児募集開始時期等の申し合わせ事項を全地区にご承認いただきましたが、集計内容については、来年度に作成する際には、保育

料の内訳が各園で異なる場合があり、集計結果の精度向上を求める声がありました。

また、遵守事項を決めている地区においては、通園バスの停留所や他市町、他園の立場を考慮することとありますが、これは各園の事情やこの文言の捉え方が異なることから、会員園の総てが満足できるように連合会として努力することが必要であると思われます。



研修をふりかえる

研究委員会 小野寺靖子

昨年度の実績をふまえ、俯瞰図のカテゴリーに照らし合わせて各研修内容を選び、実践しました。

・新任教員研修会 7月23日・24日 …………… 80名



一日目は「新任教師に望むこと」「絵本の読み聞かせとわらべうた」、また課題別討議を行いました。二日目は

日本赤十字社職員による「幼児安全法」の講話と実技指導を受け、二学期に向け実りある研修となりました。

・中級者研修会 7月29日 …………… 133名



仙台市立鶴巻小学校米澤孝雄校長先生より「スタートカリキュラムについて」講話をいただき、午後は幼小連携についてグループ討

議をいたしました。

・未満児保育研修会 7月30日 …………… 74名

「2歳児の育ちについて」栗生あおば保育園園長黒井佐知子先生が資料をもとに2歳の世界について講話を行いました。



夏休みではありますが各園多忙の中、各研修への教員の皆さんを派遣していただき、無事に研修会を運営できました。各幼稚園の理事長先生・園長先生のご理解とご協力に感謝申し上げます。またこの10月には東北地区私立幼稚園教員研修大会<宮城大会>が開催されます。

各地区・各園の研修がより充実できますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

養成校との懇談会での意見交換 <総務・給付委員長 吉岡弘宗>

8月19日ホテル仙台プラザにおいて、例年の通り今年も養成校17校18名の出席のもと懇談会が実施されました。宮私幼の側も村山理事長をはじめとして、10名の参加でした。

お互いの現状を捉えての報告の後に、相互に意見交換をいたしました。今年度は少しずつでも問題解決の前に、お互いに理解し合う事が出来るよう話し合いを進めていきました。

そのような中で、養成校側からの意見として、宮私幼加盟各園での検討課題を頂きました。

それのみの伝達をいたしますので、各園にて考えて

みてください。

- ① 採用内定にあたっては、早めに通達をお願いします。
- ② 採用内定後の園内実習に関しては、学生としての本分の理解をお願いします。
- ③ 実習の決定に当たっては、卒園児だけでなく幅広くお願いしたい。
- ④ 実習内容が、各園ばらばらなので統一感が出せるといいのだが、如何なものでしょうか。
- ⑤ 実習内容において、書く物が多くて時間が足りない。今の学生の実態を考慮してほしい。

平成22年度宮城県私立幼稚園教育振興大会 第39回宮私幼PTA研修大会

大会スローガン 「明日を担う子どものために」～ 子育ては、家庭と地域と幼稚園～
(平成22年7月13日(火) 10:30～12:30 東京エレクトロンホール宮城)



今年度も東京エレクトロンホール宮城に於いて、溢れんばかりの保護者の皆さんと多数のご来賓をお招きし盛会に行われました。

第1部 振興大会



振興大会では、佐藤宏郎宮私幼副理事長の開会の言葉、村山十五宮私幼理事長、渥美巖宮私幼PTA会長の挨拶の後、公務ご多忙の中会場に駆けつけて下さった村井嘉浩知事よりご祝辞を頂戴いたしました。

お話の中では、宮城県の財政状況はかなり厳しい現状ではあるものの県としては、建学の精神に基づく多様な人材育成や特色ある教育を行い、本県の幼児教育の質・量両面にわたる発展に重要な役割を果たしておられる私立幼稚園の重要性を考慮し、今後とも幼児教育に対する助成の充実に可能な限り努めてまいりたいとの力強いお言葉を頂戴しました。そして幼稚園の先生方には今後とも地域の中心的な幼児教育機関として、また子育て機関として、より一層ご尽力いただきたい、更に保護者の皆様の幼稚園教育への深いご理解とご協力をお願いしたいという応援メッセージをいただきました。

また、畠山和純宮城県議会議長からは、近年、子ども達を取り巻く環境が急激に変化し、それに伴い私立幼稚園の役割も大きくなってきており、その状況を鑑みて県議会においては、私学助成の



堅持・充実を図る旨、声を大にして訴えてきていますとのお話をご祝辞として頂戴しました。

続いて末屋保広宮私幼常任理事と平貴世宮私幼PTA副会長の二人で大会宣言書を読み上げ、村井宮城県知事にお渡ししました。



最後に鎌田文恵宮私幼副理事長の閉会の言葉で第1部振興大会を終了いたしました。

第2部 PTA研修大会

「演奏とトーク」

講師：柴生田 桂子先生（ヴァイオリン奏者）
ピアノ伴奏 進藤 泉先生



今回は、「演奏とトーク」ということで、ヴァイオリンとピアノの演奏を楽しむ研修会となりました。

ヴァイオリンとピアノが奏でる音楽に親しむことにより、情操豊かな心を育もうということがねらいです。講師の柴生田先生は県内外の多くの幼稚園保育所などに赴き、演奏をされてきた経験から、子を持つ親の喜びや悩み等を楽器演奏を通して、表現してこられました。今回の演奏も優しく優雅な音色で行われ、会場の聴衆の心を癒してくれました。そしてまた、演奏を通して生の音楽鑑賞の臨場感や迫力がCDやテレビで聞く音楽と違い、心の奥底に残るものだという事も改めて認識いたしま



した。参加された保護者の方々も優しい気持ちになれたのではないのでしょうか。



Close・up 理事会

平成22年度宮私幼理事会の概要

日時 5月17日(月) 午後1時～

場所 宮私幼会議室

議事

- (1) 平成22年度第1回通常総会の議案について
 - ①第1号議案 平成21年度事業報告について
 - ②第2号議案 平成21年度一般会計・退職手当資金給付事業特別会計決算報告並びに監査報告について
 - ③第3号議案 役員改選について
- (2) 正会員入会申込及び退職手当給付事業への加入申込について

報告事項

- 平成21年度第1回通常総会の議長、議事録署名人及び司会者について
- 感謝状について
- 東北地区教員研修大会(宮城大会)の進捗状況について

その他

今後の日程について

日時 7月27日(火) 午後2時～

場所 宮私幼会議室

議事

- (1) 地区別設置者・園長会議の資料について
- (2) 地区別設置者・園長会議の出席者について
- (3) 平成23年度教育振興大会の日程について
 - ・平成23年7月12日(火)東京エレクトロンホール宮城
- (4) 第25回東北地区教員研修大会(宮城大会)について
 - 各部の進捗状況について

・9月5日実行委員会

○公開園、運営責任者等最終打合せについて

平成22年9月16日(木) ホテル仙台プラザ

前回(8/24) 参集範囲：公開園園長、公開園研究担当者、運営責任者、司会者、記録者、研究発表者(県内)、実行委員会部長他

その他

- (1) 宮城県専各連退職手当資金給付事業の概要について
- (2) 免許状更新講習の受講申込状況について
- (3) 各委員会・部会会議録の記入について

新宮私幼事務局長紹介

宮私幼事務局長 齋藤 雅一(さいとう まさかず)



この3月末に37年勤めた宮城県庁を退職して、4月1日から宮私幼事務局長として勤務しております。県庁時代の仕事は、ほとんどが法務関係で、県の代理人として裁判や調停などに携わることも度々でした。

出身は仙台市の中心部です。県庁や勾当台公園などを遊び場に、中央通りを通学路にして、東二番丁幼稚園・小学校に通いました。趣味は、5年前に始めた太極拳、ネットサーフィンなどで、ウォーキング、カラオケ、推理小説も好きです。

家族は妻と大学生の子2人。広瀬川が見える支倉町のマンションで暮らしています。

子どもたちが幼い頃は、仙台バプテスト教会幼稚園にお世話になり、夏祭り、バザー、クリスマス会のお手伝いなどもいたしました。懐かしい思い出です。

今年は役員改選や教員研修大会などもあってキリキリ舞いの毎日ですが、何とか頑張りたいと思います。しばらくの間、よろしくお願い申し上げます。

平成22年度第1回宮私幼総会

出席者105名、委任状提出51名(定足数191名)：5月28日(金) 午後1時30分 東京エレクトロンホール宮城

村山宮私幼理事長の挨拶

中央も色々大変だが、幼稚園についても4月に発表された「子ども・子育て新システムの基本方向」により大変な時期に来ている。通常年2回の総会だが、それ以外にも総会を開いて先生方のご意見をいただきながら間違った方向に行かないように監視していかなければならない。

正木私学文書課長からのご祝辞

幼稚園を取り巻く環境は、民主党政権下、新しく「子ども・子育て新システムの検討会議」が4月に開催され、幼保一元化・一体化、幼児教育・保育の一体化に向けて検討がなされている。現在、平成25年度から施策が施行できることを目標に、新たな子ども指針、こども園などが整備され来年度の通常国会に法案が提出される。

本県としても、例えば幼保・ホープロblemに対して連携を通して解消したい。また子育ての環境として就労を含めた家庭環境の整備等、今後の議論を注視していきたい。

本県の幼児の就園状況について、昨年度のデータで3、4、5歳児合わせて60,000人で徐々に減少傾向にあるが、公私幼稚園児数が30,000人強で、8割以上が私立幼稚園に就園しており、皆様が大きな役割を果たしており、今後ますます期待している。本県において10年間の教育推進の将来ビジョンがあり、4つの最重点の中で次世代の育成が、今後4年間子育て支援と学力向上を両輪として進められる。本年3月作成の教育推進計画においても幼児教育の充実を図っていききたい。

これらを具体化する中で人生の土台となる幼稚園・保育所と連携しながら、学ぶ土台作りを進めるためのプログラムを県教委が中心となり、保健福祉部も連携して平成23年度から具体的施策を推進していく。それらの作成に現場の皆様、保護者に助言・調査をお願いすることもある。

本県の近年の社会情勢は、自動車、半導体関連会社の進出が相次いでいるが、その社員の子弟の教育に関心があり、教育レベルの評価に期待が持たれている。

そのような意味で、今後とも特色ある幼児教育の充実を図っていただきたい。

渥美巖PTA会長からのご祝辞

我々PTAは宮私幼理事長と一体となって知事陳情等を行っている。県の予算が厳しい中、このような運動が功を奏して学費で対21年度比1.3%増の168,153円、その他で1.3%増の66,730円となっている。幼稚園関連は47億円だが、全国的にはまだ下位であるので、正木課長にもできる限り伸ばしていただくようお願いしたい。これがとりもなおさず、子供たちの最善の環境作りにも繋がる。

議事に入る前に、長年宮私幼の理事・研究委員会委員長をお務めになられた塩釜・利府聖光幼稚園前園長宮城卓三先生が表彰されました。

議事

第1、2号議案を審議承認した。また、新役員が選出された。

新理事長・新園長紹介

子どもたちに心の豊かさを

双葉学園 理事長 菅原 万里江

双葉学園前理事長、菅原萬の後任として昨年5月から就任いたしました。

幼稚園に携わるのは、我が子3人が双葉幼稚園に通っていた時代以来ですので、今回、その時とは違う立場に立ってみて、大変に緊張した一年でございました。

当学園は家庭との連携を密にし、楽しい遊びを通して『よく考える力』『優しい心』『強い体』を育てることをモットーにしております。

遊びは、子どもたちの創造性や社会性、思考力、情操などの力を育てていくだけでなく、人間形成の大切な基礎作りと考えております。子どもたちには幼稚園という初めて出会う学校で、たくさんのお友だちと豊かな遊びを拡げていってほしいと願っております。

新任ではございますが、園児たちの可愛い笑顔に励まされながら、地域の皆さまの子育て支援に真摯に取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



こどもたちのために

西多賀幼稚園 園長 高山 敏昭

この4月から、西多賀幼稚園で、園長としてお世話になっております。

西多賀幼稚園の運営に当たっては、前園長が培われた保育の方針や地域との連携を継承したいと思っております。また、学校教育の始まりと言われてます幼稚園で、子どもたちのために、かかわっていきたいと思っております。

そして、子どもたちが、【幼稚園が大好き】【明日も、幼稚園に行きたい】という気持ちを持ち続けられるように、現在、全教職員とともに努力しているところです。また、保護者や地域の協力を得ながら、これまでに勤務した小学校等での経験等も活かし、運営しているところです。今後も、子どもたちのために、全教職員で、運営をしていきたいと思っております。

皆様方のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。



恵みに感謝

角田幼稚園 園長 芳賀 哲

以前、私は仙台市の職員あるいは保育専門学校教員、そしてまたある時は工作或パフォーマンスの「ノーム芳賀」として活動させていただいておりましたが、今年度4月より小林喜成前園長より角田幼稚園の園長を引き継がせていただくことになりました。

子どもと関わり、子どもが輝くその時に寄り添わせてもらえることだけでもとても嬉しいことですが、おまけに素晴らしいスタッフと一緒に子どもたちを見守る機会を得ました。この恵みに心より感謝したいと思っております。

まずはスタッフと心を通わせ、一人ひとりの子どもを愛し、保護者の方々の心に思いを馳せることからスタートし、子ども達の生活が充実するように努力するつもりです。

子育ては大変なこともあるけど、掛け替えのない素晴らしいものであるということを皆様と一緒に広めていけたらと思っています。

どうぞ宜しくお願いします。



地域に根ざした幼稚園づくりをめざして

愛子幼稚園 園長 庄子 むつ子

愛子幼稚園園長庄子傳治の後任として、この4月より園長を務めております。前任者同様宜しくお願い申し上げます。

愛子幼稚園では開園以来『地域に根ざした幼稚園づくり』を目指し、家庭と幼稚園、そして地域の方々が三位一体となって子どもを見守り、育てていくことを心掛け、保育を進めております。

日頃お世話になっている近隣の方々へ、子どもたちが『ちびっこ郵便屋さん』と称し、月一回の『近隣版園だより』を届けています。地域の方との会話を通して、褒められて嬉しかったことや、挨拶を交わすことの気持ち良さ等を、素直にことばで表現できるようになりました。また、庭や道すがらに咲いている草花にも関心を向け、花の株を分けていただいて園庭で大切に育てています。

このような事からも、愛子幼稚園の子どもたちは、地域の皆さんに暖かく見守られていることを実感しています。今後とも、地域や家庭との連携を密にし、『地域に根ざした幼稚園づくり』をめざして、職員と共に励んでまいります。

皆様のご指導ご支援を宜しくお願いいたします。



幼 稚 園 と と も に

幼稚園訪問記・古川幼稚園



〒989-6143 大崎市古川中里一丁目3-16
園児数39名 3クラス
(年少7名、年中14名、年長18名)

今回は、大崎市古川にあります、昨年新園舎に建替えられたばかりの古川幼稚園にお伺いしました。大正12年に信仰と愛をもって幼児教育の責任を果たすべく、日本基督教会古川教会（現日本基督教団陸前古川教会）の公益事業として創立し、古川における私立の幼児教育の草分けとなりました。現在、古川地区で最も長い歴史を持つ私立幼稚園としての使命を果たしております。



園長 関 純一先生

先の震災では甚大な爪痕を残し、園舎の建替えを余儀なくされました。園舎の建替えの際は、地域の皆様や卒園児らの温かい心と励ましを数多く寄せていただき感謝しております。

<キリスト教主義による保育とは？>

キリスト教の聖書に基づいて、子ども一人一人の人格を大切にしております。子どもは愛されている

古川幼稚園では

- 保育時間
8:30~13:30
- 預かり保育
保育終了~18:00
- 給食
月、木、金曜日の3回、その他はお弁当になります。
- 特色教育
 - ・キリスト教主義による保育
 - ・自由遊びを重んじる保育
 - ・手作りの部分を大切にしている
- 未就園児教室
月2~3回開催（0歳~）
- 通園バス運行

という情緒の安定を基盤に、自分の世界を拡げていき、幼稚園での生活を通して、自分自身を受け入れ、友だちを受け入れ、共に生きていくことができるようになることを保育の目標としております。

遊びの中で育っていける環境を整え、一人一人を大切にしたい保育（自由保育）は当園の長い歴史の中で変わることなく受け継がれてきた考えです。この保育方針は誤解も多いのですが、勝手に遊ばせているだけではなく、子どもたちは、自分の考えを持ち、判断して、遊びを発展させ、友だちとの関係を築いていきます。当園の保育者はその手助けをしています。

<特に力を入れている教育等がありましたらお聞かせください>

先ほどもお話ししましたが、キリスト教主義による保育と自由遊びを重んじる保育、そして手作りの部分を大切にされた保育です。見かけ



は悪くても、手作りによる作り手の温もりを子どもはしっかりと感じとってくれます。手作りの部分で最も大きいのが、お家の方が作ってくださるお弁当です。初めての社会生活を送る子どもにとって、お弁当は体の栄養だけでなく、心の栄養ともなります。お弁当を通して、お家の方の応援を子どもたちはしっかりと受け止めているのです。

また、幼い子どもたちが、生きる力を持った大人に育つために、自由遊びを重んじておりますが、ピアジェ博士の理論に基づいた教育方法を取り入れ、発達構成論の視点から子どもたち一人一人に対する教育を行っています。10年後、20年後、子どもたちが自律した人間として、自分の考えを持ち、自分の行き方を切り開いていけるようにと願っています。

☆102条園として厳しい運営とご推察いたしますが子どもたちの笑顔のために頑張ってください。本日は、誠にありがとうございますでした。（記者）



❖ 民主党地元議員との懇談会 ❖

期 日 6月19日(土) 午後2時～3時10分
 会 場 仙台エクセル東急
 出席者 民主党 桜井氏・今野氏・郡氏・齋藤氏
 宮私幼関係 30名

参議院選挙を前にして、初めて民主党地元選出議員と宮私幼の懇談会が開催され、幼保一体化などについて熱い議論が交わされた。また、桜井充議員に宮私幼振興対策協議会から推薦状が手渡された。



初めに桜井議員が新しいマニフェストの「子育て・教育」について説明し、今

野・郡・齋藤議員が関連した考えを述べた。

それに対して、宮私幼側から以下の問題が提起された。幼保の現場、保育所の待機児童の実態などを把握していない。終戦後の孤児の救済や低所得で保育に欠ける子どもの保育と、今日共稼ぎで



保育所に通園している子どもが同一に税金の支援を受けており、本来の福祉事業から離れている。幼保には成立ちと歴史に違いがあり、あえて一体化の必要性があるのか。幼児期の親と子のつながりは非常に重要で、子育て支援と福祉は違う。幼保で食育やインフルエンザなどの対応が極端に違う。最も該当者の多い就園奨励費第4階層の減額は保護者に大きな負担を強いている。などなど。



【mini-news】

❖ 平成23年度私立幼稚園関係 政府予算の概算要求まとまる

幼稚園就園奨励費補助第4階層

大幅な回復で単価4,000円増を要求

- ・8月30日、文化省は概算要求の内容を公表、全省庁10%削減という極めて厳しい状況の中、全日私幼連では、強力な要望運動を展開した。

私立高等学校等経常費助成費補助

幼稚園分

322億4,800万円

(対前年5億2,600万円増 1.7%アップ)

園児1人あたり単価

22,714円(対前年127円 0.6%アップ)

幼稚園就園奨励費補助

211億195万円

(対前年7億7,800万円増 3.8%アップ)

○私立幼稚園の補助単価の引き上げ

IV 市町村民税所得割課税額(183,000円以下)

47,600円(4,000円増)

他区分は前年と同額の要求

訃報

4月22日末屋昭朗氏(ドリーム幼稚園前理事長)ご逝去

【表紙によせて】

古川幼稚園保育の様子から「どうぞ~召し上がれ！」

✍️ 編集後記 ✍️

政権交代と共に、幼稚園教育を取り巻く環境の変化を意識せざるを得なくなってきました。教育も政治と無縁ではない、対応は考えなければならぬでしょう、しかし、政治に引きずられてはならない、そういう思いを新たにしています。

私たちの側から政治に対して訴えていくことが重要になってきます。資源のないこの国がなによりも大事にしなければならないのは「人」であり、幼児教育にこそ重点を置くべきだという認識を、政治に携わる方々に持ってもらいたいと願っています。(U)